

番号	計画(案)の記載内容	市民意見の要約	市の考え方
1	「新型コロナウイルス感染症」当該感染症の全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められる感染症	新型コロナウイルス感染症が少なくとも日本では、本当に重大な影響を与えていたかどうか、考えてほしいです。ワクチン接種が始まるまでは、日本は、陽性者数・死者数とも、低く抑えられています。まん延すると生命や健康に影響を与えると認められるに値するののかと思います。	本計画において、「新型コロナウイルス感染症」の用語の説明は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(平成10年法律第114号)」における定義を使用しています。
2	市は、新型コロナウイルス感染症への対応経験を踏まえ、患者等の人権に最大限に尊重し、感染症の発生動向に関する適切な情報の提供、感染症とその予防に関する正しい知識の普及啓発、風評被害対策等を早期に実施する	神戸市の新型コロナウイルスのホームページを見ると、とても正しい知識を啓発しているとは思えません。無症状病原体保有者からも、感染する可能性がある」と記されていますが、厚生労働省のサイトにある論文では、不顕性感染者からの2次感染は0.4%と、非常に少ないです。マスク無しの会話や3密が感染拡大リスクというのは、嘘です。会話で発生する飛沫のウイルス量が少ないからです。3密も、唾の飛ぶ距離からして、関係はありません。マスクを着用する場面についても、「高齢者等重症化リスクが高い方への感染を防ぐため」とありますが、研究などから、感染予防効果は認められていません。換気も、唾が窓の方向に向かうわけではなく、それほどこまめにする必要はあるのかと思います。こうした見当違いな対策について検証して訂正しないと、説得力がないです。人権の尊重についてですが、健康な人にまで必要もないのにマスクの着用が強制されるなど、コロナ騒動が始まってから、ないがしろにされてしまっています。こうしたことについて、市はきちんと取り組んできたのかと思います。このことは、大いに反省してもらいたいです。	本市における新型コロナウイルス感染症の知識の啓発は、厚生労働省及び国立感染症研究所等による知見をもとに行っています。
3	感染症に関し、誤った情報や不適当な報道がなされないように、また、誤った情報や不適当な報道がなされた時には速やかにその訂正がなされるように、市は、平時から報道機関との連携を図る	テレビや新聞では、コロナに用心する前からインフルエンザが減っているのにマスクなどの対策で減ったなどといった、憶測に基づいた報道が横行しているのが現状です。こうしたことへの対策がずさんだと感じています。市には、直ちに報道機関に対して注意喚起してもらいたいです。今後もパンデミックが起きるかもしれませんし、コロナよりも強毒な感染症が流行るかもしれません。施策を実施するのは大切だとは思いますが、コロナでの対策の延長線上になってしまっは困ります。	本市における新型コロナウイルス感染症の知識の啓発は、厚生労働省及び国立感染症研究所等による知見をもとに行っています。正しい知識が報道されるよう、引き続き報道機関と連携してまいります。
4	-	医療産業都市構想の一環として民間企業との共同事業として市内 肺炎入院患者における RSウイルス抗体価の経時的変化による肺炎入院患者におけるRSウイルスの関与の実態調査 高齢者のRSウイルス感染は、キットでは検出がほとんど出来ず、PCRは高価すぎ、現実的に実態をつかむ方法が抗体価の経時的変化しかない。個々の患者については、臨床的には、治療には役に立たないが、関与度合いを知ることが、RSウイルスワクチン接種を進めていくうえで大きな情報となる。特にメーカーにとっては、販売促進に非常に有効な情報になる。これを利用して、患者さんの了解のもと、検査残余血清を提供してもらい、システムクスに抗体価など肺炎で入院した患者さんがRSウイルスに感染したためかどうかを、入院時および、1, 2, 3, 4週間後など経時的に測定してもらい、重症度との関係を解析してもらう	RSウイルス感染症は、主に小児において流行しますが、基礎疾患を有する高齢者においても特に注意が必要です。特効薬がなく、基本的には対症療法となります。本市では一般的な感染症と同様に、小児の患者報告数の増加が見られる場合は、マスク着用や消毒等の感染対策を呼びかけています。また、神戸医療産業都市として、企業との連携による研究開発の推進は非常に重要であると考えており、感染症対策にかかる研究開発についても重点的に取り組んでまいります。